

アラウンド・ザ・ワールド 2

Around the World

第103回

保険商品のイノベーション

アラウンド・ザ・ワールドPart2の103回目は、がん保険を考察する。世界各国の保険業界が変化を続ける中、総合的ながん保障の需要が顕著な市場の一つが日本であり、がん保障に特化した商品の開発における課題に貴重な知見を提示する。
(RGA再保険会社提供)

日本のがん保険の概要

長年、日本はがん治療の発展の最前線に立ち、それゆえ、がん保険の販売が成功を収めてきた。保険会社は、がんによる大きな経済的負担を保障する多様な商品を提供している。日本のがん保険の特徴は、シンプルでありながら総合的な保障を重視する点にある。大半のがん保険は終身型で、

新たなトレンド：液体生検と生存率の改善

医療技術の変化により、保険会社は、がん保険の今後の行方を左右する二つのトレンド、すなわち、液体生検の普及と生存率の改善を注視すべきだ。

液体生検：がん発見のゲームチェンジャー

従来の生検は組織標本を採取する必要があるが、液体生検は、血液や尿、脊髄液等、体液を分析する非侵襲的な方法だ。革新的な点は、がん細胞が血流等に放出したDNAやRNAを検出し、分析することにある。

がん生存者の新たな時代への適応

保険会社にとって、液体生検の普及はがん保険に大きな影響を及ぼす。現在、早期がんの診断能力は限定的で、過剰診断が多くなっている。こういったがん診断によって保険金請求の高まり、商品の持続性への影響が見られる可能性がある。

生存率の改善

前がん病変に対する液体生検は、現在、臨床試験・分子に関する情報

験中で、診断のプロセスを大きく変えるかもしれない。液体生検を用いて、がんを発症するリスクを体液の検査だけで予測でき、早期がんに対する治療が可能になれば、医療費が減少し、患者の負担は軽減する。また、今後がんの定義に、がんになる可能性の高い病変も含むようになる可能性もある。診断の件数増加は一つの側面に過ぎない。早期のうちに発見されるとがんの予後が良好になりやすく、がん

は、各患者固有のがん特性に最も適切な標的治療や免疫療法をがん専門医が選択する上で有益だ。

アジア地域の知見

保険会社は日本市場独自の課題を乗り越える上で、海外保険市場からヒントを見つけることもできる。つまり、さまざまな国や地域のがん保険や特定疾病保険の特徴や傾向を精査することで、世界の保険市場の状況について理解を深め、ベストプラクティスの学習機会を得ることができる。日本以外のアジアの国々では、多様な疾患を対象に一時金給付を提供する特定疾病保険の保障の一部にがんを含めている。一般に、がんに対しては支払回数の制限が設けられ、将来のがんリスクのエクスポージャーを制限している。例えば、香港の複数回払いのがん保障では、保障金額の5倍まで支払うと保険契約が終了する。同時に、保障範囲をがん以外に拡大することで、分散化によるリスクの低減を行っている。韓国では、早期甲状腺がんに対する保障金額の引き下げの動きが見られ、過剰診断の増加への対策としている。同様

まとめ

日本の保険市場、およびがんリスクが変化を続ける中、保険業界は市場に出現する新たなトレンドに対応する必要がある。液体生検やがんの生存者の増加は、保険会社にとって課題と商機の両方を呈しており、保険契約者のニーズの変化に対応した商品や戦略の適応が求められる。

将来を見通す保険会社・再保険会社は、世界の保険市場の知見を得て、それを日本市場の動向に適用し続けることで、日本においてがん保険や特定疾病保険を拡大・変革する機会を得る。それにより、個人や家族が総合的な経済的保障を最も必要な時に確実に受けられるようになるだろう。

【チョイ氏のプロフィール】香港大学卒業。米国アクチュアリー会正会員。プライシングや商品開発の分野をはじめとして、香港および東南アジアの保険・再保険業界で豊かな経験を有する。2024年にRGA入社。現在は、日本のお客さまの商品イノベーションを支援するR&Dや商品開発の取り組みを管轄している。



チョイ氏



大場氏

執筆者

RGAリインシュアランスカンパニー日本支店
ヘッド・オブ・プロダクト・ディベロップメント

マンソン・チョイ

日本語訳

RGAリインシュアランスカンパニー日本支店 通訳

山本あゆみ

日本語監修

RGAリインシュアランスカンパニー日本支店
ディレクター ビジネス・ディベロップメント部兼 商品開発部

大場 康平